

脚本・主演 中村 敦夫

朗読劇

線量計が鳴る

右向けといわれれば右向き、左といわれれば左、
死ねといわれれば死ぬ。おれはもう、
そういう日本人にはなりたくねえんだよ！

原発の町で生まれ育ち、原発で働き、そして原発ですべてを失った。
これは何かの陰謀でねえべか…？
中村敦夫氏が演じる年老いた元原発技師のひとり語り。

2019 4/20(土)

開場 9:30 上演 10:00~12:00

会場 ニューサンパレスむろと
室戸市領家235-1

※高知県立室戸体育館の駐車場をご利用ください

2019 4/21(日)

開場 13:00 上演 13:30~15:30

会場 三翠園 1階「富士の間」
高知市鷹匠町1-3-35

※公共交通機関をご利用ください

予約
受付中

両日とも全席自由・**入場無料**

※各会場の定員に制限があるため事前のご予約をお願いします。

ご予約は裏面の予約申込用紙を「郵送」または「FAX」でお送りください。

〈主催〉 医療法人恕泉会 内田脳神経外科

〈後援〉 高知県、高知県教育委員会(高知県と高知県教育委員会は公益に資する自由な議論の場の確保のため
当該事業を後援している)、高知市、高知市教育委員会、高知新聞社、RKC高知放送

◆ 中村敦夫(なかむらあつお)プロフィール ◆

1940年、東京生れ。幼年期に福島県に疎開し、小・中学校時代を過ごす。東京都外語大学を中退し、劇団俳優座に入団。1972年放映の「木枯し紋次郎」が空前のブームに。その後、日本最初の本格的なTV情報番組「地球発22時」のキャスター、参議院議員、大学の講師を勤め、現在は日本ペンクラブ理事、環境委員を務めている。俳優としてドラマ「CHANGE」「不毛地帯」「仁」などに出演。著書に「ごみを喰う男」「暴風地域」などを出版。



中村氏が東北弁で語る朗読劇

- 一場 原発の町で生まれ育ち、原発で働き、そして原発事故ですべてを失った主人公のパーソナル・ヒストリー(個人史)。
- 二場 原発が作られ、日本に入ってきた事情。原発の仕組み。福島事故の実態。
- 三場 主人公のチェルノブイリ視察体験。被曝による医学上の諸問題と現実。放射線医学界の謎。
- 四場 原発を動かしている本当の理由。利権に群がる原子カムラの相関図。

◆ 予約申込用紙 ◆ ※定員になり次第、申込を締め切らせていただきます。

●参加日(○印をつけてください) 4/20(土) 4/21(日)

●お名前(ふりがな)

●ご住所

●電話番号

●申込区分(○印をつけてください)

一般・会員(室戸健康大学・健やか塾・すこやか大学・新老人の会)

予約申込用紙に必要事項を記入の上「郵送」または「FAX」でご予約下さい。

ご予約はこちら 〒780-0952 高知市塚ノ原37 内田脳神経外科 企画室 / FAX(088)854-3151

お問い合わせ先 内田脳神経外科 企画室 TEL(088)843-6007 土・日・祝日を除く9:00~17:00